

2018 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	田所 弘基
研究テーマ	日本近代文学と美術の相関に関する研究
研究概要	明治大正期の詩歌を中心に、文学作品と美術作品の表現方法の相関性について検討する。特に高村光太郎の短歌、詩作品にあらわれる美術評論の理論を手がかりに、同時代の文学者と美術理論の相関を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2018 年度も継続して、高村光太郎の詩歌、短歌、美術評論の分析をおこなった。本年度は特に『道程』期の詩歌について、作品に表出する思想の変化について検討した。具体的には、『道程』中盤に位置する詩歌「夏の夜の食慾」を取り上げ、詩句の読解をとおして高村光太郎の当時の問題意識を考察した。</p> <p>研究の結果として、これまで未詳とされていた「ヒルトの芸術生理学」について明らかにすることができた。また、他の詩句についても、高村光太郎の美術評論や随筆と関連させることで、その意味を明らかにすることができた。以上により、「夏の夜の食慾」には、〈日本〉と〈西洋〉との差異という問題意識が詩句によって表現されていることが分かった。</p> <p>また、高村光太郎に関する研究書として最も新しい中村稔『高村光太郎論』（青土社、2018 年）の書評を書く機会をいただいた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>「夏の夜の食慾」解釈、第 63 回高村光太郎研究会、アカデミー音羽（東京）、2018 年 11 月。</p>
3. 今後の課題	<p>2018 年度の研究の結果と高村光太郎が『道程』前後の変化を意識していたことをふまえて、『道程』前半の特徴と後半の特徴の差異について検討を進めたい。また、これらの詩歌に表出した高村光太郎の問題意識と美術評論に関係性について検討を進めたい。</p>